

タイトル	タンザニアと友だちになろう ~タンザニアの文化と水問題~		
氏名	井波 友里		
学校名	大阪市立横堤小学校		
担当教科	音楽以外の全教科		
実践教科	総合的な学習の時間・社会・図工	時間数	42時間(学年 7時間)
対象生徒 学年	第4学年	対象人数	32名(学年4クラス 129名)

カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・タンザニアの文化に親しみ、多文化共生にむけて的心情を育む。
- ・タンザニアの水環境から自分たちの生活をみつめ直す。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ：出会い ねらい：タンザニアの学習に期待感をもたせる。	・タンザニアのイメージや知っていることを出し合う。 ・Tangazo村の写真について話し合う。	・ポストカード ・ワークシート ・写真①
2～4限目 テーマ：知ろう! ねらい：タンザニアの生活や文化について知る。 〈学年での学習〉	(1)国語科教材「ボレボレ」から東アフリカの生活について知る。 (2)『タンザニアを知ろう!』 ・Google Earthで位置を確認する。 ・タンザニアの文化や生活を知る。 【写真②～④】 ・♪「Jambo Jambo」を歌う。	(1) 国語科教科書・キテング (2) カンガ・キテング・キコイ ・Google Earth ・パワーポイント ・CD・歌詞カード
5～6限目 テーマ：ウガリを作ってたべよう! ねらい：食文化を体験させる。〈学年での学習〉	・タンザニアの食文化について知る。 ・ウガリの調理実習 【写真⑤～⑦】	・ワークシート ・ウガリ ・作り方・食べ方を書いた模造紙
7～15限目 テーマ：カンガを作ろう! ねらい：文化にふれさせること。	(1)『カンガファッショショをしよう』 ・カンガについて知る。 ・カンガやキコイを着る。 (2)『世界で1枚、わたしだけのカンガを作ろう!』 ・カンガをデザインし、描く。 【写真⑧～⑩】	・カンガ・キコイ ・書籍「タンザニア民話とティンガティンガ」 ・画用紙

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
16～37限目 テーマ：友だちと仲良くなる! ねらい：タンザニアの子どもと心をつなぐ。	(1)DVDや指導者の話からタンザニアの子どもの生活を知る。 (2)タンザニアの友だちに手紙を書く。 (3)『タンザニアの友だちにビデオレターを送ろう!』 ・日本の紹介やタンザニアの友だちへのメッセージをビデオレターにまとめる。 ・ビデオレター撮影(学習発表会にて) 【写真⑪～⑫】 【写真⑬】	・DVD (タンザニアで撮ったビデオを編集したもの) ・写真 ・ワークシート ・(2) で書いた手紙
38～42限目 テーマ：水について考えよう! ねらい：タンザニアの水環境から自分たちの生活をみつめ直させる。 〈(1) (2) は学年での学習〉	(1)『タンザニアの写真から水について考えよう。』 (2)「JICA出前講座」 JICA大阪の荒岡さんに来ていただき、ガーナの水環境について話していただく。 (3)『水新聞を作ろう!』 これまでの水に関する学習を新聞にまとめる。 【写真⑯～⑰】	・写真 / ~0 ・ワークシート ・プリント 【写真⑯～⑰】

授業実践の詳細

18～37時限目「友だちと仲良くなろう！」と、38～42時限目「水について考えよう！」についての詳細

友だちと仲良くなろう!

DVDを見て、そこに登場したタンザニアの子どもの中からメッセージを送りたい子を選び、手紙を書く。DVDの視聴後、黒板に登場した子どもの写真を貼り、名前や年齢、どんな子か分かる範囲で子どもたちに伝えた。

手紙にはDVDから分かったタンザニアの生活、教えたかった日本文化や自分たちのこと、そして多くの子が書いた「友達になろうね。」「一緒に遊ぼう。」「タンザニアに行きたいな。」などのメッセージ。これらの思いをもっとタンザニアの人々に伝えられる形はないかと考え、手紙に書かれた内容を集約し、ビデオレターを作ることにした。

ビデオレターはグループごとに日本・大阪府・日本文化・食文化・私たちの学校について紹介し、メッセージや歌のプレゼントを全体で発表するという構成で制作した。グループ発表に関しては各グループで調べたことをまとめ、どうしたらタンザニアの人によく伝わるだろうかと考え、地図や絵を描くなど提示資料も工夫した。歌のプレゼントは「もみじ」とスワヒリ語の歌詞の「Jambo Jambo」にした。メッセージにはこれまで学習したことと子どもの感想を織り交ぜ、よびかけの形で発表し、これを学習発表会で撮影することで保護者の方にもこれまでのタンザニア関連の学習内容が伝わるようにした。

【児童の感想】

- いっぱい調べたり、本を読んだりして、大阪府や大阪市のことが分かりました。タンザニアの人にはぼくのことや4年3組のことを覚えてほしいです。今日の学習発表会が成功できて本当に嬉しかったです。
- タンザニアのみんなに喜んでもらえるといいな。
- ビデオレターをやっている時に教室がタンザニアになったみたいでした。緊張しましたが、すごく楽しかったです。これからもタンザニアのことを教えてください。

水について考えよう！

ビデオレターの取り組みと並行して取り組んだが、タンザニアの水問題を知らせる前にタンザニア文化に親しみ、心をつなぐ活動を十分行うことを配慮した。「タンザニアの人はかわいそう」などと短絡的に思ってほしくないと思ったからである。

また、記載する水に関する授業以外に、水道教室（浄水実験授業）と遠足で浄水場の見学をし、水に関する学習を深めた。

(1) タンザニアの写真から水について考えよう！

授業までに一学期の水の学習のふりかえりと、水の重さが実感できるようバケツで水を運ぶバケツリレー体験を運動場で行った。【写真⑭】

授業ではタンザニアの水環境を示す写真を提示し、グループごとにその写真から考えたことを発表した。茶色い水道水の写真【写真⑮】では「かつおだし」「りんごジュース」ではないかなどの意見が出た。それが水道水だという事実はとても衝撃的だったようである。また、日本の援助で作られた水道のプレートの写真【写真⑯】からは二国の国旗と「friendship」「water」などの単語から「タンザニアと日本は友だちだから水をあげるんじゃないかな」と考えていた。写真が多くて時間に余裕はなかったが、日本の恵まれた水環境や自分たちの水の使い方をふりかえることにおいてはとても効果的であった。

【児童の感想】

- 水は大切だと（これまで）先生が言っていて、私は大切なと思ったけど本当はまあいいやと思っていたのかなと思いました。水は大切なから今日からは水道で水を流してもすぐに止められるようにがんばろうと思いました。
- タンザニアにも水道ができる良かったと思います。タンザニアの人は水を大事に使っているけど、私たちはタンザニアの子たちを見習わないとと思いました。
- 水はすごく大切なあと思いました。これからは「水を大切に使って、無駄な水は出さないようにしよう！」と思いました。

(2) JICA出前講座

JICA大阪デスクの荒岡仁実さんに来ていただき、ガーナの文化や水環境について話を聞いていただく。子どもたちは「あ、タンザニアと同じ！」など、タンザニアとも比較しながら荒岡さんの話に聞き入っていた。ガーナの文化に興味をもつとともに、安全でない水を使うことで起こる病気やそれを防ぐための現地での活動など、水に関するお話を改めて水環境について考えることができた。

【荒岡さんへの児童の手紙】

- 水は本当になくてはならないものなんだということが分かりました。これからは水を大事にしていろんな人に言って広めていきたいと思いました。
- ガーナの人のギニアウォームを見てとても怖かったです。「安全な水」を飲めないことは本当に怖いなと思いました。私たちの普通に使っている水はすごいものなんだなと思いました。
- 水の中の虫を駆除する活動（病気の撲滅活動の一つとして行っている）を日本がしているのを知って、日本とタンザニアも仲良しだったけど、日本とガーナも仲良しなんだなと思いました。

(3) 水新聞を作ろう！

これまでの水に関する学習を各自一枚の新聞にまとめた。日本・タンザニア・ガーナの三国の水環境を記事にする子、浄水の過程や浄水場についてまとめる子など記事は様々であるが、水が大切であるということを伝える内容に工夫されていた。「世界の水を守ろう！」と、自分たちにできることを考え、節水法など調べたことを書いている子もいた。また、新聞名にも「大切な水新聞」や「水について知ろう新聞」、「世界の水新聞」など、子どもたちの思いがこめられているようだった。

水の学習に取り組み、子どもたちの行動にも水を大切にしようという意識がよく表れるようになった。何度も注意しても「面倒くさい」と手洗い・うがい時に水を止めようとしなかった子が自動的に水を止めるようになったり、友だち同士で注意し合う声が聞かれるようになったりした。単元としての水の学習にとどまらず、水道教室（浄水実験授業）と浄水場見学とともにこの「水について考えよう！」の学習ができたことでこれまでの学習をより深めることができたと思う。今後も水だけでなく地球環境や資源について考える機会を継続的に作っていきたい。

授業実践を通しての所感・反省点・今後の改善策

一学期当初、学級の児童に知っている国を挙げさせたところ「タンザニア」を挙げる子はいなかった。しかし、授業でタンザニアの話をしていく中で子どもたちがタンザニア文化に興味を持ち、楽しみながら学習ができたことは、多文化共生にむけての心情を育む第一歩になったのではないかと思う。生活や文化は違うけど、“学校が好き、友達が好き、遊ぶのが好き”といった自分たちと同じ思いを持つ子どもたちがタンザニアにいるということを知ってほしいと学習計画を立てたが、子どもたちはあらゆる場面でタンザニアの友だちに思いを寄せ、心をつなぐことができたと思う。多教科にわたり授業を柔軟に行えたことも大きかっただろう。また、ビデオレター製作など日本文化や自分たちの町について調べることは自国の良さに気づく機会にもなった。

また水の学習を含め、学年でも取り組めたことは私にとっても貴重な経験となった。JICA出前講座の後、「どうしたらJICAでお仕事ができるんですか。」と荒岡さんに聞く子や、国は違っても「みんな仲間」などと荒岡さんへの手紙に書いている子もいた。私は大きな可能性を感じた。これらの取り組みが子どもたちに世界との繋がりを感じさせたり、今後の自分のあり方を考えさせたりする小さなきっかけになったのだと思う。私自身まだまだ世界のことを知る必要があるが、今後も子どもたちの心を世界とつなぐ取り組みを考えていきたい。

●参考資料

- 橋本 淳司著 『世界が水を奪い合う日・日本が水を奪われる日』PHP研究所 2009
- 財団法人 日本経済教育センター『ビデオ・経済教育資料「地球をまわる水の旅～限りある水のはなし～』2003
- 宇野 みどり著 『タンザニア民話とティンガティンガ～虹の七色はどこからきたの？～』国際語学社 2005
- たくさんのふしぎ傑作集 『エンザロ村のかまど』福音館書店 2009

授業の様子

出合い



①

タンザニアを知ろう！ パワーポイントより

タンザニアの国旗はどれ？

- ① 日本
- ② タンザニア
- ③ アメリカ
- ④ アフガニスタン

②

クイズです！
ウガリは何かできているでしょう？

- ①お米
- ②豆
- ③とうもろこし
- ④ウガリ

今度みんなで作って食べましょう！

③

タンザニアのことがたくさん分かったかな？

○タンザニアにしかないもの、日本からのものも、日本と同じようなところもたくさんあります。

○タンザニアと日本のいいところをたくさん見つけて友達になれるといいですね。

④

ウガリを作って食べよう！

タンザニアと友だちになろう
ウガリを作ろう！

⑤



⑥調理実習



⑦手食の体験

ガンガを作ろう！



⑧



⑨作品



⑩

タンザニアの友だちにビデオレターを送ろう！



⑪手紙の内容をグルーピング



⑫提示資料の作成



⑬「あなたは私の友だち」

水について考えよう！



⑭バケツリレー体験



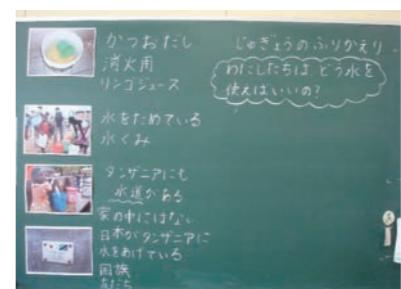
⑮水道水



⑯プレート



⑰板書



⑱板書(⑰の続き)



⑲水新聞



⑳